

「あした葉ポリフェノール CHALSAP」の抗メタボリックシンドローム作用 < ヒト試験 >

試験内容

1. 目的

あした葉ポリフェノール CHALSAP の摂取による抗メタボリックシンドローム作用の検証。

2. 試験方法

CHALSAP-P8 (総カルコン含量 8%以上) とプラセボを摂取するグループに分け、毎夕食後に 8 週間連続で摂取した。

試験はダブルブラインド方式で実施した。

試験開始前、2、4、8 週目に採血及び生理学的観察 (腹囲径、体重) を実施した。

又、試験開始前と 8 週目に CT スキャンによる内臓脂肪面積を測定した。

3. 試験対象者

健常男性 15 名 (平均年齢: 38 歳, BMI: 24 ± 3.2)

試験食群 = 10 名

プラセボ食群 = 5 名

4. 試験食品

試験食群: CHALSAP-P8 入りハードカプセル (200 mg/日)

プラセボ食品: 難消化性デキストリン入りハードカプセル (200 mg/日)

5. 試験結果

5-1) 腹囲径及び体重

腹囲径及び体重の平均変化率をグラフに示した (図 1 A, B)。

腹囲径、体重ともに試験食群の平均変化率は有意な減少を示した。

5-2) 内臓脂肪量

内臓脂肪面積の平均変化率をグラフに示した (図 2 A)。

試験食群の平均変化率は減少傾向を示した。

併せて、内臓脂肪の減少を CT スキャン画像で比較した (図 2 B)。

6. 結論

あした葉ポリフェノール CHALSAP の摂取による腹囲径及び体重の有意な減少が確認された。これらの減少は、内臓脂肪の減少によるものであることが判った。尚、内臓脂肪量が高めの被験者は減少率が大きかったが、正常域の被験者では大きな変化はなく、内臓脂肪が減少し過ぎることはなかった。一方、血液の生化学的な異常値および健康面への影響は見られなかった。

図1 体重の平均変化率(A), 腹囲径の平均変化率(B)

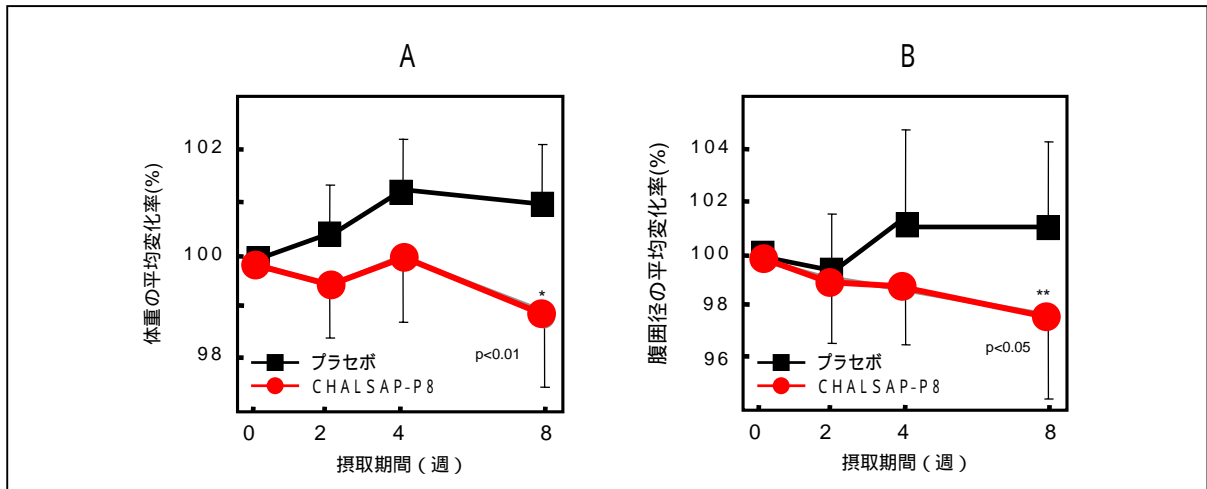
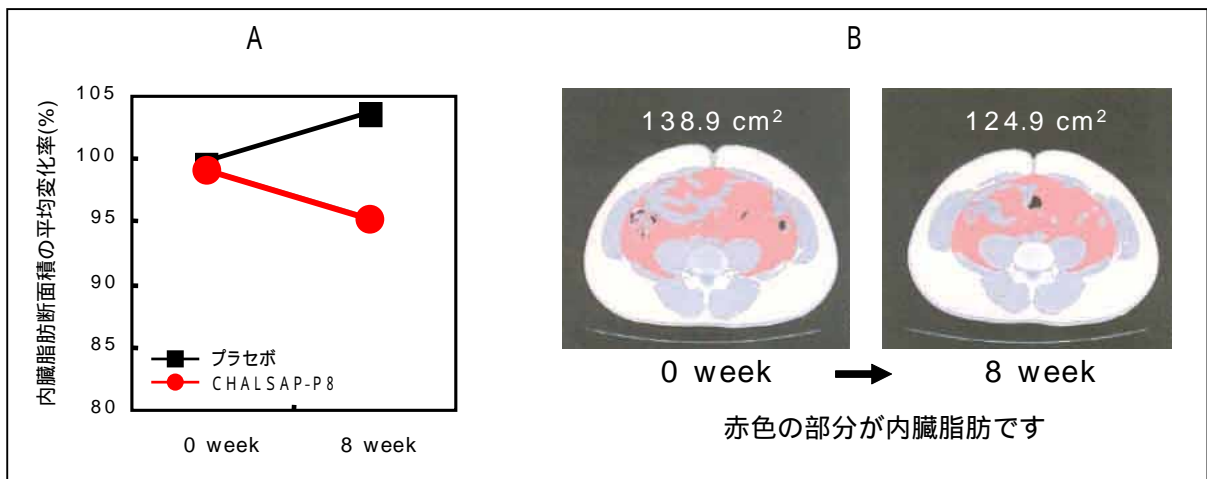


図2 内臓脂肪面積平均変化率(A), CTスキャン画像の比較(B)



< 共同研究者 >

神戸薬科大学大学院 病態生化学研究室 太田 光熙 教授
 帝塚山学院大学 人間科学部 食物栄養学科 小川 博 教授

本資料の一部または全部を許可なく無断で転載することを禁じます。